

# 【R5年度】重点目標の取組・概要（岸和田市版スマートシティ構想の策定・推進<スマートシティ推進事業>）

担当課（内線）	企画課スマートシティ推進担当（内線2216）	重点目標の方向性	未来志向の都市経営
重点目標	地域課題を解決する仕組みづくりの実現	行政の役割	広域的な視点をもって、時代に応じた施策を積極的に推進する

現状と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>政府は、SDGsの実現、社会課題解決に向けてSociety5.0の実現をめざしている。大阪府・大阪市においても令和2年3月に「大阪スマートシティ戦略 Ver.1.0」、令和4年3月に「大阪スマートシティ戦略 Ver2.0」を策定し、スマートシティの取組を推進している。</li> <li>本市にはスマートシティを推進する構想や計画自体がなく、推進できていない。</li> </ul>

R5年度の事業費（内訳）
<ul style="list-style-type: none"> <li>13,437千円（内訳）</li> <li>構想策定支援委託料 13,200千円</li> <li>学識経験者・デジタル専門人材アドバイザー報酬費 237千円</li> </ul>

課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）
<p>【中期的(4～5年後)にめざす成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産学官が協力して民間企業の事業・サービスとしてスマートシティの取組を実装し市民生活の質の向上につなげる。</li> </ul> <p>【成果に向けての各年度の進め方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(R5) 庁内にプロジェクト体制を構築し、「岸和田市スマートシティ構想」を策定する。</li> <li>(R6以降) 産学官が参加する「岸和田市スマートシティ推進協議会(仮)」を構築する。</li> <li>「岸和田市スマートシティ推進協議会(仮)」に参加する企業を中心に実証や実装を推進する。</li> </ul> <p>【R5年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロポーザルにて策定支援事業者を選定する。</li> <li>庁内にプロジェクト体制を構築する。</li> <li>学識経験者、デジタル専門人材をアドバイザーに任命する。</li> <li>岸和田市スマートシティ構想を策定する。</li> </ul>

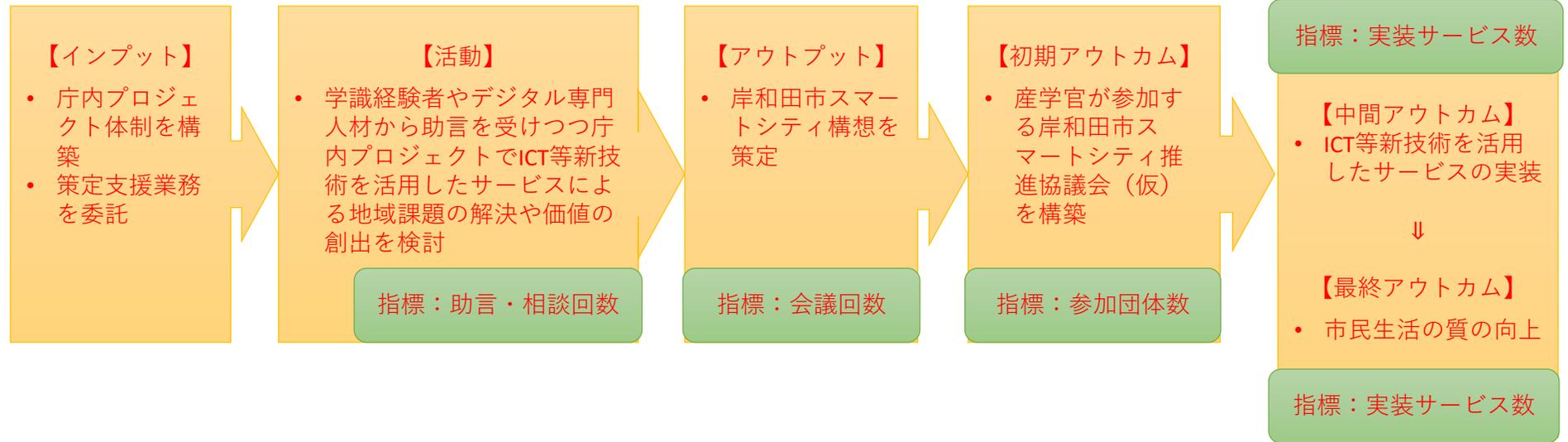
R6年度以降の想定事業費（ランニング経費）
<ul style="list-style-type: none"> <li>(R6) 15,000千円</li> <li>(R7) 15,000千円</li> <li>(R8) 15,000千円</li> </ul>

取組の進捗・成果を測る指標
<ul style="list-style-type: none"> <li>協議会参加団体数 0[R5]→5[R6]→10[R7]</li> <li>実装サービス数 0[R5]→1[R6]→2[R7]</li> </ul>

成果・指標が未達成の場合の取扱い
<ul style="list-style-type: none"> <li>(R6) 前年度を踏まえ改善</li> <li>(R7) 前年度を踏まえ改善</li> <li>(R8) 前年度を踏まえ改善</li> <li>(R9) スマートシティ推進協議会(仮)を縮小</li> </ul>

# 【R5年度】重点目標の取組・概要（岸和田市版スマートシティ構想の策定・推進<スマートシティ推進事業>）

## ロジックモデル【事業立案時点】



## その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

- 【財源】**
- 一般財源

- 【他団体の状況】**
- 大阪府・大阪市は令和4年3月「大阪スマートシティ戦略Ver2.0」を策定。

# 【R5年度】重点目標の取組・評価シート①（岸和田市版スマートシティ構想の策定・推進）

担当課（内線）	企画課スマートシティ推進担当（内線2216）	重点目標の方向性	未来志向の都市経営
重点目標	地域課題を解決する仕組みづくりの実現	行政の役割	広域的な視点をもって、時代に応じた施策を積極的に推進する

## ■ 中期的にめざす成果に対する達成度



道半ば

- 産学官が協力して民間企業の事業・サービスとしてスマートシティの取組を実装し市民生活の質の向上につなげる。

## ■ R5年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）



達成

- （R5）庁内にプロジェクト体制を構築し、「岸和田市スマートシティ構想」を策定する。

## ■ R5年度において実施・実現できたこと

- 庁内体制の組成については、政策決定会議の専門委員会として、岸和田市スマートシティ推進委員会を設置するとともに作業部隊として、部会を組成した。
- 上記庁内組織での検討等を踏まえ、委託事業者の支援のもと、岸和田市スマートシティ構想を策定した。
- 構想策定及び各種会議での助言等をいただくアドバイザーとして、大阪公立大学阿多教授にご協力いただいた。

## ■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指標名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R5年度実績値
－	協議会参加団体数	団体	0（R5）	10（R7）	－
－	実装サービス数	サービス	0（R5）	2（R7）	－
○	スマートシティ構想策定に向けた会議回数	回			15回（推進委員会5回、部会10回）
○	学識経験者の助言・相談件数	件			10回

## ■ R5年度において実施・実現できなかったこと

- R5計画当初からの変更点。会議体の位置づけ及び継続性を確保するため、当初想定したプロジェクト形式ではなく、政策決定会議の専門委員会という形式でスマートシティ推進委員会及び部会を組成した。



## ■ 課題分析

- 構想に掲げた取組を推進していく上での庁内関係課の参画調整
- スマートシティ構想の推進に向けて、組成する岸和田市スマートシティ推進協議会の設置及び運営



## ■ ロジックモデルの振り返り

- ロジックモデルは、構想策定というよりも構想推進の視点で作成していたため、今後のフェーズで活用することになる。中間アウトカムは、実証数に修正、最終アウトカムは利用者満足度などの追加が必要と考えられる。



## ■ 次年度以降の予定・改善内容

- 策定した構想の推進が目標になる。そのため、スマートシティ推進協議会の設立に向けての各種調整、実証の実施などに取り組む。
- 一方で、デジタルデバイド対策の検討を進める必要がある。地域に根付いた取組のスキームの検討を進める必要がある。